

2026 年度事業計画書

【主な会議開催予定】

- ・ 通常理事会 . . . 2026 年 5 月、2027 年 3 月
- ・ 定時評議員会 . . . 2026 年 6 月
- ・ 「前立腺シンポジウム」プログラム委員会 . . . 2026 年 9 月
- ・ 前立腺がん検診・人間ドックアンケート報告 . . . 2026 年 12 月
- ・ 「研究助成」に関する選考委員会 . . . 2026 年 12 月
- ・ 「前立腺シンポジウム」運営委員会 . . . 2027 年 3 月

【事業計画】

1. 【新】前立腺シンポジウム（自主事業）

年 1 回、国内外の専門家（泌尿器科、放射線科、病理学等）を対象に、学術集会の詳細をホームページ・泌尿器科学会雑誌に掲載して受講者を募り、専門的知識・技能等の普及、人材の育成を行う事業である。前立腺疾患の診断・治療の向上、均てん化に寄与する主テーマは、前年度の開催時に実施したアンケートの集計結果を参考に、シンポジウム運営委員会において決定される。

シンポジウムの講演内容は泌尿器科専門誌に掲載するとともに、同シンポジウムを通じて得られた専門的知識は、全国の泌尿器科専門医の日常診療の向上に寄与し健康的な国民生活の実現が期待される。

2. 研究助成（公募）

前立腺疾患に関連する基礎的研究および臨床・疫学的研究について、若手研究者（応募開始年の 1 月 1 日現在 40 歳以下）を対象に、優れた研究課題に必要な資金を助成する。

2026 度は、受賞者 100 万円を 1 名、50 万円を 2 名の計 3 名（総額 200 万円）とする。

すべての応募について有識者からなる選考委員会（12 月実施）に諮り、助成の対象となる研究課題の推薦を受け、理事会で議決承認をもって最終決定する。

3. 人間ドック施設における前立腺がん検診実施状況調査（自主事業）

年 1 回、公益社団法人日本人間ドック学会の協力のもとに、人間ドック施設における前立腺がん検診の精度管理の基礎資料を構築する目的で、ドック検査に前立腺がん検査を導入する実施機関にアンケート調査を実施する。（今回は第 22 回）

アンケートの集計結果は、泌尿器科専門医および医療統計の専門家による報告会議で解析を加え、成果報告書に取りまとめて人間ドック実施機関に提供する。この成果報告は全国で開催される前立腺の市民公開講座などの講演に活用され、広く社会一般に前立腺がん検診の普及啓発に利用される。

4. 情報提供（自主事業）

がん啓発に関する情報発信をインターネットで配信する「キャンサーチャンネル」に加盟し、前立腺がんの医療に関わる映像ならびにセミナーなどの「がん医療情報」を提供することに努めている。泌尿器科専門医、放射線科専門医による科学的根拠に基づく前立腺がんに関する情報を、簡易に利用できるキャンサーチャンネルを活用して広く社会に的確な情報を提供する。

5. 学術図書等の刊行（自主事業）

わが国に増え続けている前立腺がんに対する罹患者数を減らすためには、前立腺がんに対する正しい知識と啓発が欠かせない。保健行政担当者向けに、時節に即した前立腺がん検診に関するトピックス等の特集した「前立腺がん検診学術ニュース」を刊行し、全国の自治体に送付する。住民検診実施時などに市民から寄せられる問い合わせ等に活用するとともにホームページ上に内容の要約を開示し、広く社会一般に公表する。

6. パンフレット等の印刷（自主事業）

一般市民向けに、前立腺がん検診についての最新情報をわかりやすく解説したパンフレット「PSA 検診 受診の手引き」（2025 年 4 月版）の増刷を予定

必要に応じて全国の自治体への送付並びに市民公開講座開催時の配布資料に提供するとともに、ホームページ上に内容の要約を開示し、広く社会一般に公表する。

7. キャンペーン（後援事業）

前立腺がんの「早期発見・適切治療」の大切さを国民にわかりやすく伝えることを目的とする NPO 法人前立腺がん啓発推進実行委員会（代表者 昭和大学泌尿器科 深貝 隆志教授）が主催するブルークローバー・キャンペーンを後援し、泌尿器科専門医や各界から支援を募り幅広い活動を展開することに協力し、前立腺シンポジウムにおいても啓発の場を提供している。ブルークローバー・キャンペーン時に開催される市民公開講座には、本財団の刊行物、パンフレット等の提供とともに、財団ホームページにキャンペーン事務局のアドレスをリンクするなど、前立腺がんに関する最新情報を国民に速やかに発信することに努めている。

以上